



31××年

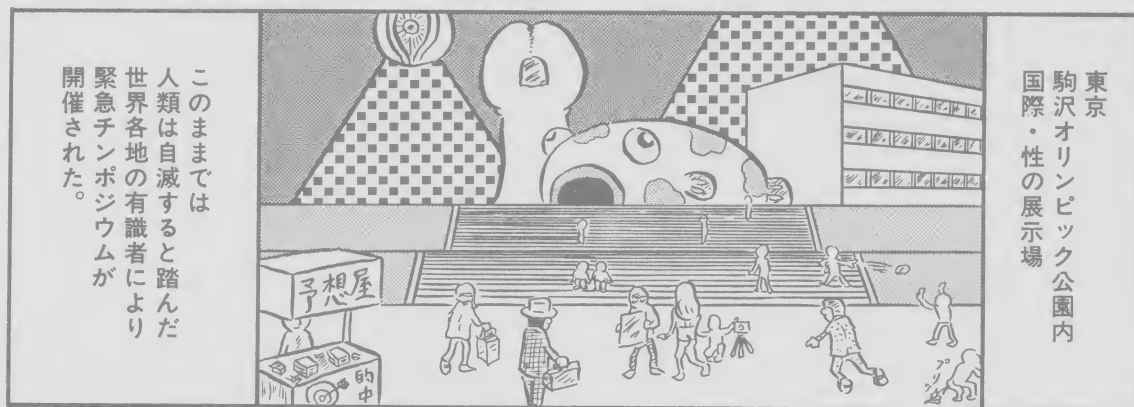


愛のスーパーSF

# 吼えろ! ザーメン75

前篇

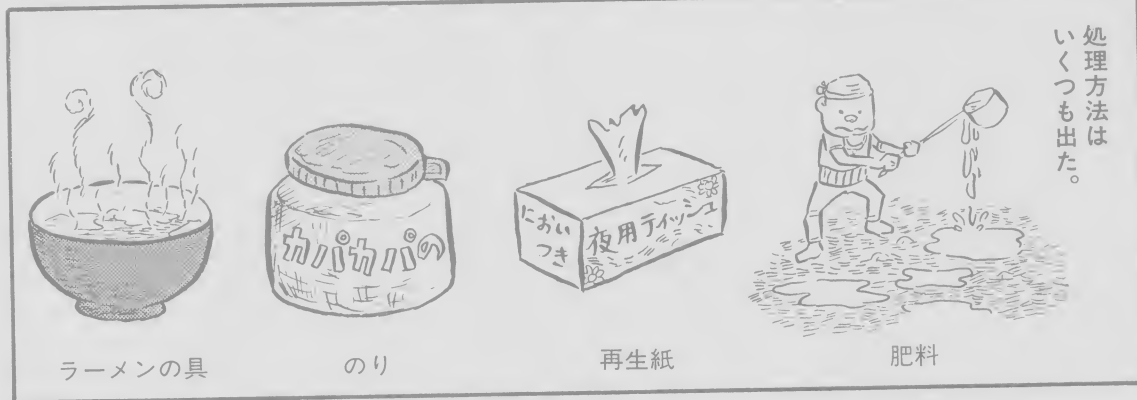
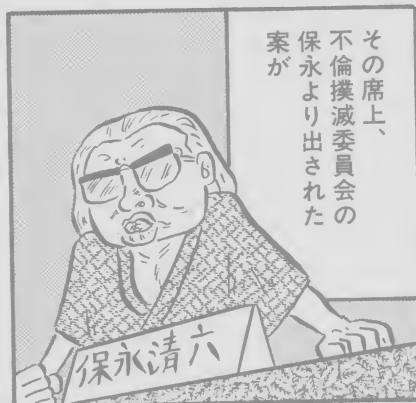
杉作J太郎





その案とは――。

諸悪の根源は無用にたまるザーメン（精液）である。  
そのザーメンを税という形で厳しく多目に徴収すれば、  
欲望に身悶えることもなくなる、というのである。  
そして、そのザーメンの量は、成人男性で1日オナニー  
3回分、という重い厳しいものであった。



大変な時代に  
なりましたねえ…  
で、前篇おわり

後篇につづく

愛のスーパー SF

# 吼えろ！ ザーメン75

後 篇

杉作 J 太郎

結局、微収されたザーメンは  
巨大タンクに貯蔵される  
ことになった。

直径一キロメートルもの  
超大型タンクであった。

各家庭から  
集められた  
ザーメンが

連日、送りこまれた

確かにそれ以来  
人々の性モラルはグッと  
良くなった。

半透明なタンクに  
たまったザーメンは、  
朝の太陽にキラキラ  
輝いて見えた。

それはまさに  
人類に久々に訪れた  
安恵の象徴であった。

ところ  
 が  
 運命の  
 3175年  
 9月26日...!

超大型の台風  
東京湾台風が  
関東をモロに  
直撃した！

濁流となった  
ザーメンは  
街をのみこんだ。

そしてそのモーレツな  
匂いは、その後  
10ヵ月……  
消えることは  
なかった……。

丁度その頃。  
街の女のほとんどが子供を出産した。  
あの濁流のザーメンにより、受精・懷妊したのである。  
もちろん、誰の子供なのやらは、判るはずもなかった。  
そして、それは同時に、人類みな兄弟時代の幕明けであつた。

人々は同家族感を覚えた。  
そして街から犯罪は消え、  
安息の日々が訪れた…。  
あの毎朝の輝きは新しい  
人類の出口を示唆していたので  
ある。

31××年



やはり  
地球は廻っている……。